

目次:

事務局よりお知らせ

竹内 遼さん寄稿

奈佐有子さん寄稿

中村まり子さん寄稿

青井睦さん寄稿

芥川雅之さん寄稿

児嶋きよみさん寄稿

ハバネロメルマガ会員募集

会員様の宣伝コーナー開設

ハバネロ質問コーナー開設

篠ファームのハバネロ栽培記



事務局からのお知らせ

8月の31日土曜日に放映されました日本テレビの番組、「満点 青空レストラン」はご覧いただけましたでしょうか？弊社のハバネロも取上げてくださり、実際に篠ソースを番組内で作りましたが、収録中は周りの見学者共々咳き込み、大変な撮影でもありました。改めていつも工場で作られて、簡単に食べられる篠ソースの存在をありがたく感じました。それに作ってくださる生産者の方々にも感謝です。



京丹波町長瀬地区のハラペーニョの生産者圃場
ご両人、ハラペーニョをかじって、驚いておられるところですよ。IKKOさんがおじさんになった瞬間が見られました。



ハバネロペーストを作る実演披露している場面
あまりのハバネロの激辛臭気で、ご両人、退かれています。このあと大変なことになっていました。



番組内で調理された「ハバネロチキン」

鶏もも肉

塩コショウで下味をつけておく。

プレーンヨーグルトに篠ソースを混ぜて一口大に切ったもも肉を揉みこんでつけておく。

サラダ油で焼く。

サフランライスを添えて。

バンラディッシュからの頼り 「バンラディッシュ唐辛子紀行」が好評発売中！

バンラディッシュからの便り・・・ですが、今回はイタリアから

アラブ首長国連邦、ドイツ、イタリア、サンマリノ共和国、マルタ共和国、バチカン市国を回る3週間の旅に出ています。

アラブでは、労働者の多くを海外からの出稼ぎの人で賄い、その多くがバンラ人でした。イタリアのシチリア島はリトルバンラのようにっており、多くの商店の窓にはバンラの国旗やベンガル文字が描かれていました。

さすが、国の財政が出稼ぎ労働者の送金で支えられているというだけあって、どこに行ってもバンラ人に遭遇します。彼らの生きる強さには感心させられます。



泣き叫ぶ従業員
連日の脅迫
出て行かなきゃただで済まないと、
パートナーの現金100万円
持ち逃げ、そして泥沼の戦い

バンラデシユ唐辛子紀行

世界一痛いジョロキア加工奮闘物語

恐怖の母親集団
催涙弾の原料300キロを
地上五階から撒き散らした！

サイクロンで苗が全滅
そして工場再起不能！

先月発売した「バンラデシユ唐辛子紀行」は、予想以上の売れ行きとなっています。アマゾンでご購入いただけますので是非お読みください。ご感想もいただけたら幸いです。

http://www.amazon.co.jp/%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%87%E3%82%B7%E3%83%A5%E5%94%90%E8%BE%9B%E5%AD%90%E7%B4%80%E8%A1%8C-%E7%AB%B9%E5%86%85-%E5%83%9A/dp/4990394844/ref=sr_1_2?ie=UTF8&qid=1378327708&sr=8-2&keywords=%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%87%E3%82%B7%E3%83%A5

奈佐有子さんのメキシコのお話

秋らしい風が吹いて来て暑かった夏が遠く感じられますね～
みなさんも夏休みに沢山お出かけされたと思いますが、私たちは8月に篠ファームさんにお邪魔して夢のハバネロ&ハラペーニョ収穫体験へ伺ってきました！
今回ご案内していただいたのは丹波町にある畑と南丹にある畑4箇所です。
暑い最中ということで朝早く出発し午前中に現地に案内していただきました。



9月号

現地に到着してまずは畑の整備された美しさに感動！ハバネロ通信で見ていた、丁寧に育てられていた苗たちがこんなに大きくなっているのにも驚きました。



畑に入って自由に収穫していいよとのことで・・・
実の収穫仕方を教わり、畑に入ると太陽の恵みを受けてすくすくと育ったハバネロが実をつけています！赤い色のハバネロがかわいい！
あまりのチレの量にうれしくなりました。チレ好きにはたまりません～
収穫はかるく手で上に向けてもぐと完熟のハバネロはポロリととれます。3歳の娘は楽しいようで下から覗き込んで収穫していました。しかし8月～9月が最盛期のことですので炎天下の中収穫されるのは大変な量です。

あわせてハラペーニョの畑も見せていただいたのですが、つやつやと光った大きなハラペーニョが沢山実をつけていました。思わずかじりそうなくらい美味しそう！
畑も美しかったのですが畑を囲む大自然の美しさにも感動しました。

濃い緑、澄んだ空気・・・

素晴らしい環境でいい唐辛子たちがそだっているのだなーとしみじみ感じました。

お土産に収穫したチレやお野菜まで頂いて大満足の日でした。

帰ってさっそくもちろんメキシコ料理に大量のハラペーニョを入れてサルサベルデを作りました。

もちろん格別の味でした！ 篠ファーム様、生産者の方々、貴重な体験を本当にありがとうございました～！！



中村まり子さん寄稿

わが家のいつものメニュー+チリ

～ 篠ソースマヨネーズのサンドイッチ～

先日の満点・青空レストランで放送のハバネロチキン、とても美味しそうでしたね！

早速作ってみようと思いますが、ハバネロソースを作るためのミキサーも防護マスクも持ち合わせていませんから、



篠ソースにフレッシュハバネロの刻みを少々まぜてハバネロソースに代用させてみたいと思います。

篠ソースといえば、我が家ではマヨネーズに混ぜている利用していますが、その中から今月のおすすめはサンドイッチです。

マヨネーズにお好みの量の篠ソースを混ぜ込み、いつものサンドイッチを作るだけで

不思議なくらいひと味美味しいサンドイッチが出来上がります。先日友人にご馳走しましたら、美味しいソース！！と感激されました。

写真はハムとチーズ、そしてたまごのバケットサンドです。

もう一つご紹介したいのが、残り野菜で出来ちゃう**オープン-toastサンド**です。

(トースト2枚分の材料)

食パン2枚 ハム、ソーセージ、シーチキン 等少々(ハムなら2～3枚程度) 玉ねぎ、ピーマン、パプリカ等残り野菜少々(合わせて3～40gくらい)

シュレッドチーズ 大3～4

マヨネーズ 大2～3 篠ソース お好みで

食パンはホイルに巻き、バターをぬっておきます

食パン以外の上記材料をフードプロセッサーで粗めにしあげる

に をたっぷり載せてトースターで焼き、出来上がりです



忙しい朝や冷蔵庫に材料の少ない朝でも簡単に美味しくボリューム満点の朝食が出来上がります。

辛いのが好きな方はピーマンの代わりにハラペーニョでも入れて、いかがでしょうか？

MUTTSUNN 通信

2年間のペルー滞在も残り1カ月を切りました。ペルーに来てよかったな~と思えることのひとつが、日系ペルー人との出会いです。

ペルーには多くの日系人がいます。その規模、知名度とも南米日系社会と言えばブラジルが有名ですが、日本からの南米最初の移民はペルーでした。日露戦争以前の1899年2月27日、ペルー契約移民790名が横浜から出港し、同年4月3日ペルーの首都リマ付近の港に着きました。そして現在、日系ペルー人は1~5世代となり、私の友人の3世は50代で、4世となる17歳の娘がいます。その多くは出稼ぎ労働者として日本で働いた経験を持ちます。しかし驚くのが、8年など長期間日本にいたにも関わらず殆ど日本語が話せないのです。

その理由は日本での生活にありました。彼らは工場の労働者として大量に雇われます。そのため工場には通訳がいます。日々の生活も工場と自宅の往復、週末は同郷の家族や仲間と過ごすため、日本にいても日本語は特に必要とされないのです。もちろん子供は学校に行くので日本語を覚えるのですが、ペルーに帰ってまったく日本語を使う環境がないと殆ど忘れてしまいます。しかし、同じ南米にあるパラグアイの日系人は日本語が上手で、パラグアイ内でも日本の文化を受け継ぐ日系人コミュニティが機能しているほどだそうです。

日系ペルー人が殆ど日本語が話せないのにはもう一つ理由がありました。移民してきたさい、ペルー社会に溶け込んで暮らしていくことを決めたのです。そのため、子供たちにわざと日本語を教えない家庭もあったそうです。当時ペルーに移民してきた日本人達のこの覚悟を知ると、日本語が話せない彼らにも日本人の面影が重なり、親近感がわいてくるから不思議です。

最後に、お世話になっている日系2世のおばあさんが突然語り出したのは、第2次世界大戦の際に、父親がアメリカの収容所へ連れていかれたことでした。あの時代、アメリカと敵対していた日本が祖国であるがため、移民たちはブラックリストに載り警察に追われ、ペルー市民の略奪の対象となるなど日々逃げ回っていたといいます。朝食中にいきなりこの重い話をされて戸惑いましたが、私が日本人だからこそ、話さずにはいられなかったのかもしれませんが、日本で語られる日本史以外にも日本の歴史が存在し、その歴史を経たからこそ今の自分たちが存在することを。

mutsumi



とんがらし芥川さん寄稿

こんにちは

今年は8月のお盆過ぎまで猛暑日が続いて畑の水やりに泣かされる日々が続きました。しかし、その後は一転して日照量が少ない曇りや雨の日が続いています。しかも、奈良では夜間の気温がかなり低くなって盛夏から一気に秋になってしまいました。

とんがらしたちにとって今年はあまり良い夏ではなかったように感じます。

私自身の管理不足もありますが、露地栽培については採点すると40点です。努力してもなかなか自然には勝てません。本当に毎年が勉強です。

露地の畑は無農薬ですので、毎年カマキリやバッタがたくさん遊びに来るのですが、今年はその数もかなり少ないような気がします。それでもここにきて逞しく壮健な姿を見せてくれている品種が数多くあります。

既に収穫もスタートしていますが、鈴生りに実ったとんがらしの樹のなかを歩くのが非常に楽しい日々を過ごしております。

今回は、とんがらしたちの美しい実の彩りをテーマに紹介させていただきます。

ご見学も大歓迎です！！：とんがらし芥川 TEL0744-47-0744

現在の圃現場の様子



トウガラシのスコピが2013.09.02、2mほどになりました。
激辛品種は施設内でこだわり栽培で冬季に収穫です。



露地のとんがらしは最も美しい時期です。
1月から種を播き始めて、感動の季節を迎えています。

彩り美しいとんがらし



トウガラシ種のカイエンペッパー JS



宝石のように輝く特別に美しい秘蔵品種

9月号



バックーチム種 カレイドスコープ



日本のトウガラシ種 黄金とうがらし



世界的に人気あるポリビアンレインボー



とても涼しげなブリジットロコト



シネンセ種！ ハバネロ レッド&オレンジ



日本のトウガラシ種代表品種 タカノツメ



オージーブラック



アジ オムニカラー



モルガ スコーポン

児嶋きよみさん寄稿

ハバネロ通信 9月号 Office Com Junto(児嶋きよみ)

2013年8月 GlobalSession Report

期日:2013年8月10日(土)

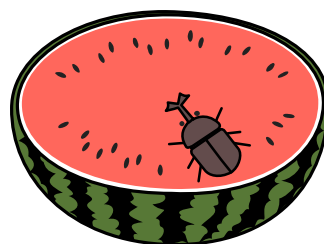
時間:10:30 12:00

場所:ガレリア3階 会議室

Guest Speaker: Gary O. Haase さん Coordinator: 亀田 博さん 参加者: 11名

Title: The Influence of Culture on Laws in California and Japan

日本とカリフォルニアの法律上の文化的影響



9月号

「日本の野球少年達は、何があっても、Modest(落ち着いている)と思う。
アメリカなら、「僕が一番！やったぜ！」と言うだろう。日本と米国では
グループの個人に占める割合にちがいがあろうよ」

アメリカで弁護士資格を持つ Garyさんは、家族で日本に在住する道を選びました。その視点で見えて来たことがいろいろあります。さて、どのようなセッションが展開してきたのか、読んでお楽しみください。

参加者近況

TK：9月9日～15日 趣味の水彩画展覧会 ガレリア

SF：趣味に cooking が加わった。奥様と少々、バトルあり

SM：最近、毎日が野菜づくり

KA：学校で英語を教えている

YH：両親の元を訪問したり、コンサートをしたり、8月末には、英語研修で英国へ

SK：英語学習クラスを運営・暑くて料理がいやになるので、船越さんみたいな夫が
いるといい。

TK：園部在住・孫が夏に来たりしていそがしいが、今日だけは、離れられて幸せ

KK：福井の実家に行って風を通して来た。ついでに夕方、三国港に足を伸ばし、美しい海を見て来た。

亀田：琵琶湖の花火大会があったが、雨で多くの花火が休止になりかわいそうだった。

亀田：琵琶湖花火の最寄り駅は、膳所駅

SK：息子が住んでいるので、よく花火を見に行くが、10人以内の観光船での見物もできる。ピアンカなど大型観光船は料金が高い。

亀田：3000円くらい

亀田：Garyさんは、最初に日本に来たのは、JETプログラムの英語指導助手と書いてあるが、最初の日本に来たいと思ったのは、どうしてか？

G：大学の学資を借り入れていたので、そのローンの返済の必要がありました。UCLAは州立で、1993年ことで、今よりもっと安かったが、私学は授業料が高くて、大変です。マーガレットさんの大学など私学で、1年に400万円もしたと聞いています。UCLAでは、Englishが主専攻で、学校のスポーツコーチを目指していましたが、スペイン語を話すので、南米か、スペインにまず、行こうかと思っていたが、給料が多くないかと思っていたら、日本のJETの募集ポスターを見たのです。College Degree(大学卒業資格)があれば、日本語ができなくてもOKというのも、魅力でした。

最初の赴任先は、愛媛県の松山でした。あまり期待をせずに来て、1年で帰ろうと思っていたのに、私の人生が変わってしまいました。だんだん日本に興味湧いてきて。

KK：大学の授業料を借りるのは、アメリカでは、普通ですか？

G：入学する前には、「銀行から借りられるから、是非大学へ！」と誘われるが、卒業すると、仕事があるなしに関わらず、また、十分な給料があるなしに関わらず、請求してくるので、なかなか大変です。また、政府からの貸し付けもあり、政府のは、利率が固定しているが、銀行は、変更ありの方法が多いのです。

KA：学んだことが、生活をおびやかすこともあるのですね。

SM：来日したときに、日本語力は要求されなかったのですか？

G：JETの場合は、まず、大学卒資格を持っていて、「日本に如何に興味があるか」のレポートを提出し、次ぎに面接試験があります。日本人2人とアメリカ人1人のグループの面接官がいました。私は、スーツを着て、何も入っていない鞆を持ち、「私は採用される価値がありますよ」というふりをして、臨みました。その時は、「クリスマス」について、子どもたちに説明をするという課題を与えられたのです。

9月号

SM: 就職したら、「こんにちは」がはじめのことばだったのですか？

G: 日本語の字は、ひらがなやかたかなや漢字もあり、とても難しいですね。

TK: 奥さんは、当時そばにいらしたのですか？

G: 2年目と3年目に変わる夏に京都へ日本語の集中講座を受けに来て、日本語教師の妻に会ったのです。

KK: JET プログラムは、日本語能力を勉強させたり、要求しないのは、問題ですね。

亀田: 松山が一番最初の地でしたね。田舎はどうですか？

G: 松山は、道後温泉があり、みかんがあり、「坊ちゃん」の場所でとても好きでした。

当時のボスは、松山先生といい、小柄な方でしたが、とても尊敬できる人でした。

ロスという都会から来ていたので、とても新鮮で、田舎が好きになりました。

SM: 日本語力はどれくらい伸びましたか？

G: 6年たっても難しいです。府国際センターで、毎週の本語講座を、2.3ヶ月間は、続けて学びましたが。

SF: 奥さんとはいつ会ったのですか？

G: 1年目の夏の休暇はロスへ帰り、2年目の夏は

ルームメイトの家に滞在しながら、京都で

日本語学校に通いました。毎日ちがう先生でし

たが、その時に妻と会ったのです。その後、

松山にもう一年いて、ロスに帰りました。その時は、

私たちは京都と松山とにいたのです。

SF: あなたの奥さんがあなたの人生を変えたのですか？

G: 帰国して、今度は、Law School に入りました。アメリカの弁護士は、日本ほどは合格率が低くはないです。3年間は Law School に行き、ライセンスを得るには、あと2年必要です。

SM: どうして弁護士になろうと思ったのですか？

G: 50年間ホテルのドアマンをしてきた父は、それなりに生活に満足していたので、弁護士になりたいということをすすめはしなかったです。また、妻も、弁護士を薦めなくて、教師でいいと言っていました。父と私は、よく話し合い、お金が生活の全てではないけれど、弁護士の方が、より大きな道が広がると思う

私を、父も楽しみにするようになりました。

SM: 弁護士になったとき、いくつでしたか？

G: 普通の年齢とはちがいましたね。

SM: 日本でも弁護士の仕事を始めるのは、結構遅いですが、

亀田: どんな仕事から始めたのですか？

G: 5年間は、病院の患者と医者との仕事の法的相談をしていました。

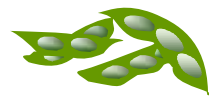
KK: テキストの中で、日本の社会とアメリカとのちがいとして、「グループ」での占める位置がちがうと指摘されていますね。もう少し、説明してください。

G: カリフォルニアの学生は、個人で何でもできると思い込んで甘やかされていると思いました。日本に来て、自分はわがままでグループのことを考えていないと感じました。

亀田: 例をあげるとどうですか？

G: 例えば、日本の野球少年達は、何があっても、Modest(落ち着いている)と思います。アメリカなら、「僕が一番！ やったぜ！」と言うでしょう。

TK: 個人よりチームとして良くなろうとしています。そういう伝統があるのでしょうか。野球の場合は、一人がすばらしくても、チームが弱ければ、トーナメントで上に行けませんね。



9月号

亀田: Independant という考え方に、アメリカの若者は頼りすぎと言えるかもしれませんね。

G: 一般的に、日本人の社会は複雑で、単に、カリフォルニアと日本との差だけではないと思います。

KA: グレーゾーンのような場所がありますね。

G: 日本に来て、日本でもケースによって差があると気づいて来ました。

アメリカのコロラド州から、最近日本に来たばかりの Tさんは、小学生の子ども達の制服姿をキュートと言っていた。黄色いカバンに、帽子も黄色で、みんなが同じものを身につけています。アメリカでは、全く、同じ物をきたりしないし、でも、いじめもあるし、外から見るとよく見えるのですね。日本では、「外人・外人」と言っていて興味があるのに、怖がったりする。松山で初めてあったご婦人は、わたしの顔を見て、大急ぎで財布の入ったカバンを握りしめ、とられないようにという動作をしたことを思い出します。ロスには、ヒスパニックやその他の人種が大勢いて、白人は盗まれないかと気を配っていますが。

亀田: たくさんの人種がいるので、個人主義でないといけないのでしょうか。

KA: 北海道へ行ったら、中国人や韓国人がいっぱい来ていて、とても驚きました。アメリカでは、人種が多いので、個人主義でないといけないのでしょうかね。

G: 帰宅していつもその日のことを妻に言うと、彼女は二つの

見方をしていて、「日本人がいつも外人をこわがっているわけではないですよ」とも言っていました。

亀田: 西洋は個人主義だが、最初は、不服を言わないですね。中国人に対しては、自分のミスでなければ、不足を言った方がいいですね。

G: 最初は、日本人の対応の仕方は、親切だと感じます。茶道でも他の人の考えをおもんばかりの方法をとりますね。でも、私たちは、アメリカでは、「おなががすいたら、自分で言う」というスタイルで育って来たのです。

亀田: Yes・No を日本語で言っても、どちらの意味かわかりにくいですね。

G: 「わかりました」は、Yes かどうかかわからないですね。

亀田: 「検討します。」は、「はい」か、「いいえ」か、わかりませんね。

KK: "Consider" does not mean "Yes" in Japanese.

G: このような答え方だと、お金や法律に関わることだと難しいですね。また、ビジネスでも、グループの関係で仕事が見つかったりしますね。仕事を探していると、年齢でひっかかる場合が多かったのですが、アメリカでは、法律で、年齢を元に就職差別を禁止しているので、年齢で落ちることは、ないはずですよ。

日本に来て、法律関係の会社が見つかったのは3年目です。それは、40才という年齢のこともあったと思います。カリフォルニアでは、働く男女の比率は、半々です。

亀田: たくさんのお医者さんがいるとすれば、どうやって人々は選ぶのでしょうか？

G: 例えば、日本人の女性とアメリカ人の男性が結婚して、その男性の死後の相続の問題とか、いろいろな事象があります。カリフォルニアは、いつも新しい人が流入してくるのです。日本ではあまり、ふつう事件がないでしょう。

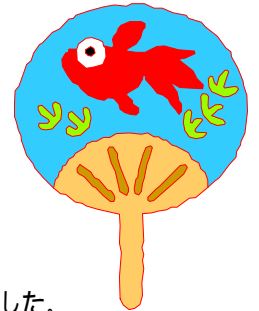
亀田: 日本は、保守的ですね。

G: カリフォルニアには、同性婚も認められていますね。

KA: グループの中で、他の人のことを考えるという点については、日本人は強いと思いますが、個人主義については弱いと思います。でも最近、ワクチン接種でも、医者が親に尋ねて署名を求めてからということになって来ています。

TK: 病気については、患者や家族は、あまり知らず、医者はいそがしいので、あまり話をゆっくり聞いてもらえないのが普通です。自分の孫も障害があるが、良い医者を見つけるのは、昔も今もずっと大変でした。患者も十分な知識が必要なきときがあるが、法律的にも、定められるような政府の支援が必要だと思います。そうでなければ、安心して相談できる医者はなかなかいません。権威に対しては、「しかたがない」という場が多いです。

G: カリフォルニアから来て、なかなか理解しにくいことがあり、自分の気持ちがわかってもらえないと思うと、「しかたがな



9月号

い」と思っていました。

KK:「しかたがない」ということばは、ほとんど言ったことがないです。

TK:まだ若いからですよ。いいですね。

KA:友人がアメリカで2ヶ月の命と言われたが、家族がいろいろな医者を探し続けて、結局は亡くなりましたが、いろいろなやり方があると思いました。

G:患者にも、知らせてほしい人や、知らせてほしくない人と両方いるようです。自分の 義母の病気の時にも、家族は直接は、義母に言わなかったと思います。私自身は、言う べきだと思い、反対でしたが、義母の性格などよく知っている家族が判断してそのほう が良かったのだと思います。とても微妙な問題ですね。

KK:日本人も海外に住むと同じように、孤独感を感じることがありますね。家族でブラジルに住んでいたときには、よくわからない反応があると、家の中では家族で、日本語で話しながら、何故なのかといっぱい文句を言ってはき出していました。でも、一人で 滞在するとなかなか言う人が見つからず、落ち込むこともあると思います。

G:英語では、主語・述語となりますが、日本語とはちがいの言語習慣のちがいもありますね。

KK:英語を話すときと、日本語を話すときは、性格を変えているような面がありますよ。

英語の方が、楽に話せると思います。

亀田:どの人も死んでいくはずですが、できれば自分で決めたいと思っています。

では、これで、終わりです。今後もまた、Garyさんにゲストに来ていただきたいと思いますね。

今後の予定

9月7日(土) ガレリア3階 会議室 10:30 12:00

ゲスト:Williamさん (Willpower Learning Institute)

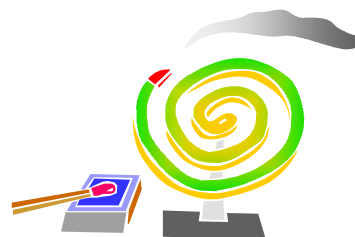
Coordinator:未定(どなたでも)

10月12日(土)子どもGlobal Session(神前 西本邸)

10月13日(日)京都市国際交流会館 1:30~3:00

ゲスト:濱田雅子さん

「ポルトガル服装史」 Coordinator:児嶋



The Influence of Culture on Laws in California and Japan

When I arrived in Matsuyama, Ehime, as a 26-year-old high school English teacher, in July 1996, I did not know much about Japanese society and I had not studied the Japanese language. As a member of the Japan Exchange and Teaching (JET) Program, I understood that my role was to spend a year speaking English with my Japanese students; in return, I would be given the chance to learn about Japanese culture and to experience living in a foreign country while paying off my college loans.

I drastically underestimated the impact that this “Japan experience” would have on my life. By living in Japan, and by spending time with people from various backgrounds, I gained an ability to look at my home country from a new perspective. When my one year in Japan was over, I felt like I had learned more about history, sociology and economics than I had learned in all of my prior years of California schooling combined. I renewed my teaching contract and stayed in Japan for a total of three

9月号

years, which was the maximum period for the JET Program at the time. I ended up marrying a Japanese woman I had met while on the JET Program. And after five years of practicing law in California, I decided with my wife that we would return to Japan with our daughter to live in my wife's hometown of Kameoka.

During my three years in Matsuyama, I kept a journal* and wrote about the new and interesting things that I was observing and experiencing in Japan. One aspect of Japanese society that has always fascinated me, is the importance placed on “the group” in comparison to the status of “the individual.” This knowledge about group-centered values proved to be helpful when I was a lawyer in California, U.S.A., a place where Western-style individualism often affects how people get things done.

As a young hospital lawyer in California, one day I was asked to help with a case in which a family of an adult patient was asking the patient's physician to withhold “bad news” from the patient. The medical condition might have been a diagnosis of incurable cancer, and the patient's family might have been from a country in Asia. The general legal approach in California, subject to some exceptions, favors patient autonomy: a competent adult has the right to make her own health care decisions, and the physician should provide medical information concerning the patient to the patient unless the patient requests that she not be so informed.

Alternatively, Japanese researchers published an article* describing how patients in Japan may have fewer opportunities to participate in medical decision-making as a result of issues such as “physician paternalism” and “national characteristics of dependency and passivity.”

Do you think Japanese patients are less involved in their medical decision-making compared to patients in California? How is the “patient autonomy” approach consistent with Western-style individualism? Which approach is better?

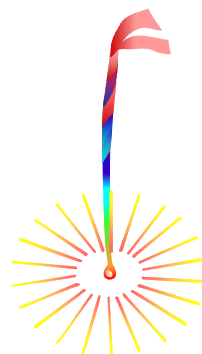
***Not Required Reading:** Excerpts from my journal appear in an article I wrote about Japan in the

April 2011 edition of *Valley Lawyer Magazine*, which can be accessed through www.sfvba.org.

***Not Required Reading: *Not Required Reading:**

*Patients' Preferences for Involvement
in Treatment Decision Making in Japan*

(www.biomedcentral/1471-2296/5/1)



9月号

「ハバネロメルマガ会員」ご参加お勧めください。

ハバネロに関心を持たれておられる方がお近くにおられましたら是非お誘いください。

申込みは簡単で、ホームページより申込みに必要事項をご記入頂き、事務局へお送りしていただけるだけで登録完了です。また、いつでも退会出来ますのでお気軽にお申込みください。

メルマガ会員の方には特典も考えております。

http://www.shinofarm.jp/habanero_tomonokai.htm

事務局

局

会員の皆様の宣伝コーナー開設いたします。

ご自分の会社やお店の宣伝・自己紹介など、案内したい内容がありましたら投稿してください。

行政関係の方もどんどん投稿してください。

ハバネロ以外でも全く問題ありませんので、会報誌を活用していただけたら幸いです。

原稿の締め切りは、毎月5日までお送りいただけましたら幸いです。

当月の10日頃をめどに、会報誌に掲載して配信致します。

原稿の送り先は、事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にお願いいたします。

事務局

「ハバネロなんでも質問コーナー」開設中

事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にご質問いただければ、直接ご質問者にお答えすると共に、承諾いただいた内容は直近の号でも紹介したいと思います。 匿名希望の方は「匿名希望」と伝えてください。

事務局

篠ファーム ハバネロ栽培記

8月の早魃でかなり株が衰弱したところもありましたが、9月に入ってハバネロは収穫の最盛期を迎えています。





京丹波町の生産者では 300 本のハバネロがたわわに実を付け、多い時で 1 日 100 kg の収量になっております。



入荷して来たハバネロの果実です。

これから選別作業を経て今話題の美味しい「京はばねろ 篠ソース」などに変身していきます。